

信州大学 学生員 ○鉢木修一

△ 正員 谷本勉助

△ △ 夏目正太郎

## 1 まえがき

ケーブル自身の解析については、OBRIEN, IRVINE, SAAFAN, 等により多くの論文が提出されているが、いずれも構造物への適用が必ずしも。そこで、实用性を考えると各ケーブルセグメントについて、ケーブル変位を忠実に表現しきる剛性マトリクス(大変形理論による)が必要となる。この報告では、それらを考慮したケーブル解析式、数値結果を示し、前編文との比較をする。

## 2 基礎式

2次元系について、ケーブルのつりあい式は変形前後でそれと次のようになる(伸びを無視)

$$\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{\gamma}{H} \quad \dots \dots (1)$$

$$\frac{d^2(y+u)}{dx^2} = -\frac{\gamma}{(H+x)} \quad \dots \dots (2)$$

その解はそれぞれ

$$y = -\frac{\gamma}{2H} \cdot x^2 + C_1 x + C_2 \quad \dots \dots (3)$$

$$u = Lx + I - N + \frac{K}{2}x^2 \quad \dots \dots (4)$$

次にケーブル伸びを無視したセん断力は、

$$S_o = (H+x_0)(u_0) - v_0 \quad \dots \dots (5)$$

ケーブルの伸びも考慮した剛性マトリクスは、次の(6)式となる。

$$\begin{bmatrix} x_0 \\ S_o \\ x_1 \\ S_1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \alpha & \beta \\ \alpha' & \beta' \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u_0 \\ v_0 \\ u_1 \\ v_1 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} R_0 \\ R_1 \end{bmatrix} \quad \dots \dots (6)$$

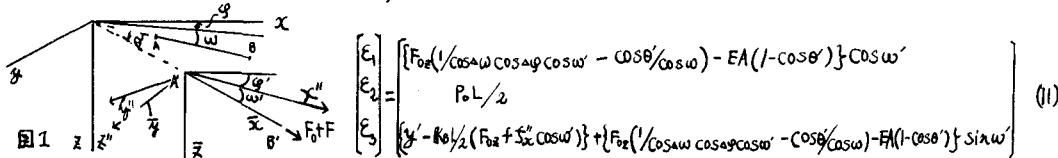
$$\alpha = \begin{bmatrix} -EA/L \cdot \cos^2 \theta' & -EA/L \cdot \cos \theta' \sin \theta' \\ -EA/L \cdot \cos \theta' \sin \theta' & -EA/L \cdot \sin^2 \theta' - (H+x_0) \end{bmatrix} \quad \dots \dots (7)$$

$$\alpha' = \begin{bmatrix} (H/\cos \theta - EA)(1 - \cos \theta) \cos \theta' \\ y' - \frac{L}{2}x_0(H+x_0) + (H+x_0)/\cos \theta(1 - \cos \theta) \sin \theta' \end{bmatrix} \quad \dots \dots (8)$$

次に3次元系を考える。つりあいは、中間座標  $x''$  や  $y''$  や  $z''$  系でとる。(面外荷重や張力の面外方向への張力影響も考慮する)

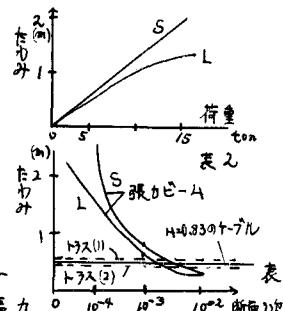
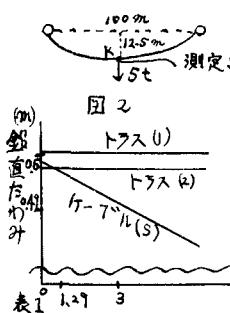
$$\begin{bmatrix} S_{x0} \\ S_{y0} \\ S_{z0} \\ S_{x1} \\ S_{y1} \\ S_{z1} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos \theta - \sin \theta' & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ \sin \theta - \cos \theta' & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \lambda & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u_0 \\ v_0 \\ u_1 \\ v_1 \\ w_0 \\ w_1 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} E_1 \\ E_2 \\ E_3 \\ E_4 \\ E_5 \\ E_6 \end{bmatrix} \quad \dots \dots (9)$$

$$\lambda = \begin{bmatrix} EA/L \cos^2 \omega' & 0 & -EA/L \cos \omega' \sin \omega' \\ 0 & -(\frac{F_{ox}}{\cos \omega'} + \frac{S_x}{L})/L & 0 \\ -EA/L \cos \omega' \sin \omega' & 0 & -EA/L \sin^2 \omega' - (\frac{F_{oz}}{\cos \omega'} + \frac{S_z}{L})/L \end{bmatrix} \quad \dots \dots (10)$$



中間座標から全体座標  $x$  や  $y$  や  $z$  系へ変換すると(9)となる。

## 3 数値結果・あとがき



左図・左表において、SI微小変形解、LI大変形解、トラス(1)：自重を考慮した解、トラス(2)：自重無視、表3は、張力ピームの断面2次モーメントを変化させ、それに対する鉛直たわみの変化を比較したものである。以上は、ケーブルにかかるものであり、構造部材化は、大変形理論による剛性マトリクスを組み合わせて解く。大変形理論による3次元解は良好であり、あとは、ケーブルマトリクス使用のいいい。収束が問題となる。当日は、CATWALK の例を述べる。